

除雪機

取扱説明書

HG-KC214



もくじ

はじめに

このたびは除雪機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。　安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

安全上のご注意

※お使いになる人や他の人への危害･財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。
※誤った取扱をした場合に生じる危険とその程度を次の区分で説明しています。

●表示と意味をよく理解してから、本文をお読みください。
●お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見ることができる所に、必ず保管してください。
●すべて安全に関する内容です、必ずお守りください。

 警告

誤った取扱をしたときに、死亡や重傷に結びつく可能性のあるもの。

 注意

誤った取扱をしたときに、軽傷または家屋･財産などの損害に結びつくもの。

 取扱においてその行為を禁止します。

 指示に基づく行為を強制します。

製品を長くご愛顧いただくために

取扱説明書に従った正しい取扱や定期点検、保守を行ってください。
注意事項に従わず何らかの損害･故障が発生した場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。

安全にお使いいただくために



除雪機の安全に係る事項



・バッテリー液を身体や衣服につけないでください。 万一付着したときは、すぐに水で洗い流して下さい。

・回転している部分の近くに手又は足を入れないでください。

・改造、分解は絶対行わないでください。安全性・信頼性が低下したり故障の原因になります。 また、当社の保証サービスは一切受けられなくなります。

・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています、触れないでください。やけどすることがあります。

・換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。

・排気ガスには十分に注意してください。



・除雪機をご使用になる前に、エンジンの始動、停止のしかたを覚えてください。

・燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行って下さい。

・燃料をこぼさないように注意してくだい。 所定のレベルを超えて補給しないでください。

・雪詰りを取除くときは、必ず雪かき棒を使用してください。

装置の操作をしている時の安全に係る事項



・正しい操作を知らない人、子供には操作をさせないでください。

・視界が良くないときは使用しないでください。

・身体の調子が悪いとき、判断力に影響するような酒類、薬物を服用して使用しないでください。

・砂利道は石が飛び出すなど危険です、除雪しないでください。



・除雪部分、投雪口や回転部分に顔や手足、衣服などを近づけないでください。

・除雪機をご使用時は、子ども、動物、ペットを遠く離れるようご注意下さい。

・除雪する場所の異物はあらかじめ取り除いておいてください。

・除雪部が異物に突き当たったり、巻きついた場合には、速やかにエンジンを停止し、回転部が完全に停止してから異物を除去し、除雪機が損傷されていないかを調べてください。損傷があった場合には、完全に補修した後でなければ除雪機を再始動しないでください。

・除雪部分、投雪口などに詰まった雪を取り除くときは、エンジンを停止し、誤って・エンジンがかからないようにしたうえで、回転が完全に止まったうえで、雪かき棒を使ってとりのぞいてください。

・装置から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。危険を感じたり、予

安全にお使いいただくために



注意

除雪機の安全に係る事項



・指定された用途以外には使用しないでください。



・燃料は無鉛ガソリンを使って下さい。
・子供の手の届かない安全な場所に保管して下さい。
・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。

装置の操作をしている時の安全に係る事項



・雪の中に石が混入していると遠くまで飛ぶ事があるので十分注意してください。
・傾斜面を横切って除雪しなでください。傾斜面で方向を変える場合には、十分注意をしてください。



・機械カバーなどは機械が十分冷めてからかけてください。
・すべりにくい靴、防寒服、手袋などの作業に適した服装を心掛けてください。

・坂道の走行には注意してください。
・後方へ走行するときは、足元ならびに背後の障害物に十分注意し、転倒したり障害物に挟まれないように運転してください。
・除雪時は操作に集中し、特にバック時は、滑らないよう足元をご注意ください。
・すべりにくい靴、手袋、保護メガネ、保護帽などの作業に適した服装を心掛けてください。
・定期点検整備を行ってください。
・停止するときは、オーガ　ハウジングを接地させ、運転キーを抜いてください。
・除雪機を長時間保管するときは、取扱説明書にしたがって保管してください。

安全ラベル



・回転しているオーガに触れると死傷することがあります。 除雪部分、投雪口や回転部分に顔や手足、衣服が巻き込まれないように注意してください。





・ご使用前に取扱説明書をよく読んで下さい。
・騒音に注意してください。
・物が飛び出します 人や動物を近づけないで下さい。
・回転部分に近づかないでください。死傷することがあります。
・排気ガスによる中毒に注意してください。
・換気の悪い場所で使用しないでください。
・火災や爆発により死傷するおそれがあるので、給油時にはエンジンを停止すること、火を近づけないようにしてください。
・オイルタンクにガソリンを入れないでください。

各部の名称





ご使用の前に

主要諸元

除雪幅 (mm)	355
除雪高 (mm)	250
走行	手押し
最大除雪量 (トン/時間)	8
最大投雪距離 (m)	8
投雪方向	190 °
エンジン	ZONGSHEN
エンジン形式	4サイクル
定格出力 (kW[ps]/rpm)	1.9[2.5]/3,600
排気量 (cm3)	97
始動方法	リコイルスターター
使用燃料	無鉛ガソリン (レギュラー)
潤滑油	5W-30
燃料タンク容量 (L)	1.4
潤滑油容量 (L)	0.35
重量 (kg)	18

諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

組立

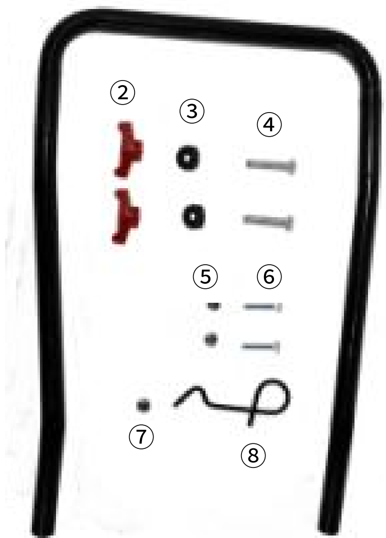
●梱包部品一覧表

念のため、各パーツが不足していないかのご確認をお願いいたします。
不足している場合は、お手数ですがハイガー産業株式会社までご連絡ください。

①	下ハンドル
②	ロッキングレバー
③	ロッキングワッシャー
④	ロッキングボルト
⑤	下ハンドル取付けナット
⑥	下ハンドル取付けボルト
⑦	リコイルロープガイド取付けナット
⑧	リコイルロープガイド

⑨	投雪口
⑩	投雪口取付けナット
⑪	投雪口取付けワッシャ
⑫	投雪口取付けボルト





ナイロンナット
ナットの上部にナイロンリングが挿入されており、緩み止め効果があります。 リング部分がボルトに掛ると回りにくくなります。



組立

1.下ハンドルの取付け

下ハンドルを2本のボルト・ナットで本体に取付ます。

1.下ハンドルおよび取付けボルト、ナットを準備します。
2. 下ハンドルについている取付け穴と本体の取付け穴を合わせ、外側からボルトを通して中側からナットを締め、下ハンドルを本体にしっかり固定します。

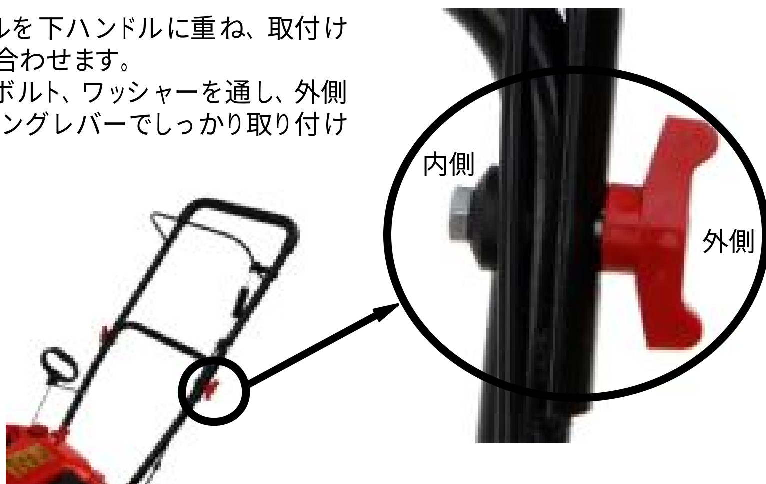


ご使用の前に

2.上ハンドルの取付け

上ハンドルを2本のロッキングレバーで下ハンドルに取付ます。

1.上ハンドルを下ハンドルに重ね、取付け穴の位置を合わせます。
2.内側からボルト、ワッシャーを通し、外側から、ロッキングレバーでしっかり取り付けます。



3.リコイルハンドルの取付け

リコイルロープガイドを取付け、リコイルロープを通します。

1.リコイルロープガイドを下ハンドル右側の取付け穴に外側から差し込み、内側からボルトでしっかり取り付けます。
2.リコイルロープをガイドの中に通し、リコイルハンドルがリコイルロープガイドに止まるようにします。



4.投雪口の取付けの取付け

投雪口を本体に取り付けます。

1.投雪口の出口を前方に向け、本体の取付け位置に置き、取付け穴2か所を合わせます。
2.取付けボルトを内側から通し、外側からナット、ワッシャでしっかり固定します。



運転前の点検

●燃料の点検

燃料（無鉛ガソリン）の量を点検します。



点検の方法

1.車体を水平な場所に移動させます。
2.燃料ゲージの液面を確認します。
　H･･･　液量が多い
　L･･･　液量が少ない
3.少ないときは上限の位置まで補給してください。

補給のしかた
使用燃料　　自動車用無鉛ガソリン（レギュラーガソリン）
燃料タンク　1.4L

補給後、給油キャップを確実に閉めてください。

 警告

・点検、整備を行うときは、エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で行って下さい。
・火気を近づけないでください。
・静電気を除去してから給油してください。
・燃料はこぼさないように補給してください、万一こぼれたときは完全にふき取って下さい。
・燃料は注入口の口元までいれず給油限界位置を超えないように補給して下さい。

 注意

・補給時、燃料タンク内に水、雪、氷が入らないように注意してください。
・ハイオクガソリンは使用しないでください。

運転前の点検

●エンジンオイルの点検

エンジンオイルの量、よごれを確認します。

点検の方法

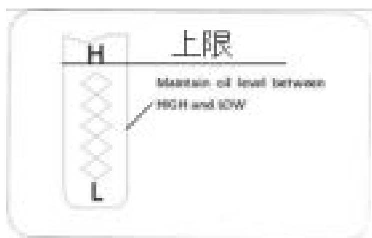
1.車体を水平な場所に移動させます。
2.オイル給油キャップを外します。
3.オイルゲージの上端までオイルがあるか
点検してください。
4.オイル量が少ないときは、新しいオイル
を補給してください。



補給のしかた

推奨オイル　SAE 5W-30
オイル容量　0.35L





運転操作の仕方

●エンジンのかけ方

1.①安全キーをしっかり奥まで差し込みます。
2.② チョークつまみを右いっぱいに倒します。
(チョークを閉じる)
3.③燃料ポンプを3回押して下さい。
4.④リコイルスターターを引きます。
5.エンジンを起動後、暖気運転を行い、運転状況を確認します。異常がなければチョークつまみを左に倒します。



①は安全キーです。赤いプラスチックキーの穴の部分に紐を取り付け、作業の邪魔にならない長さで体に結び付けてください。緊急時にキーが抜けることでエンジンがストップします。

●エンジンの止め方

安全キーを抜いてエンジンを止めます。

1.オーガ・投雪口内の雪を飛ばします。
2.除雪クラッチレバーを離します。
3.①安全キーを抜き去ります。



 警告

・換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。

 注意

・除雪クラッチレバーを握った状態でエンジンを始動しないでください。

運転操作の仕方

●投雪方向と角度の調整

投雪方向の調節
1..ハンドルを左右に動かし、希望方向でとめます。

投雪角度の調節
1.投雪ハンドルを引っ張ります。
2.投雪ハンドルを上下に動かし、希望角度でとめます。
3.投雪ハンドルをはなします。





投雪ハンドルは、投雪方向と角度の調整だけに使用してください。 このハンドルを持って本体を持ち上げないでください。

●除雪クラッチレバーの操作

除雪クラッチレバーを握ると、オーガが回転し除雪、投雪を行います。離すと停止します。

除雪クラッチレバーは完全に握ってください。



除雪作業の操作

●除雪の仕方



1.エンジンを始動します。
2.投雪口を投雪したい方向、角度に調整します。
3投雪クラッチレバーをハンドルと一緒に握り、オーガを回転させます。
4.ハンドルを前方向に押して、前進、除雪を行います。

エンジンの回転が落ちる場合は、除雪部に掛かる雪の量を除雪幅を狭くしたり、前進するスピードを遅くするなどして調整してください。

前方向に押して、除雪を行います



使い方

●投雪口に詰まった雪の除去

1.エンジンを停止させ、オーガの回転が停止したことを確認してください。
2.棒等を使ってつまった雪を除去してください。

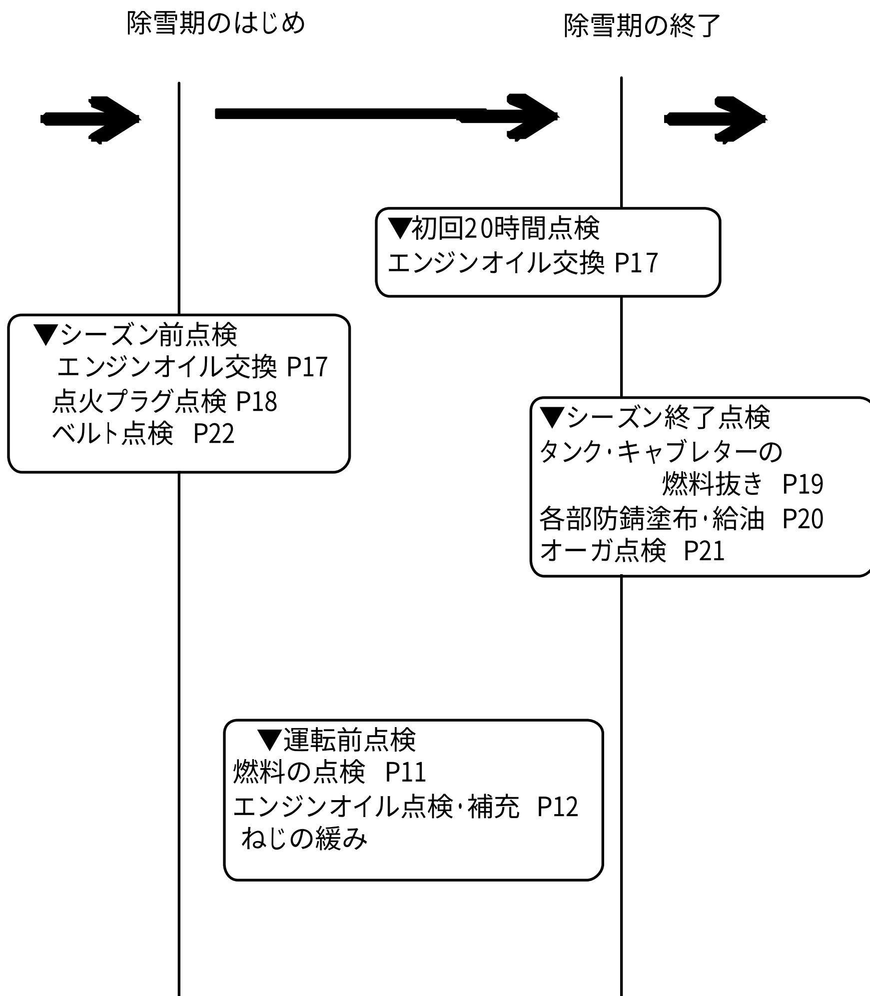


警告

・投雪口につまった雪を除去するときは、エンジンを停止し、各回転部が完全に止まってから、必ず棒等を使って雪を取り除いてください。
・エンジンが回っているときは、絶対に手を入れないでください。機械に巻き込まれ重傷を負うおそれがあります。

点検整備の仕方

いつまでも安全にお使いいただくために定期点検を行ってください。



点検整備の仕方

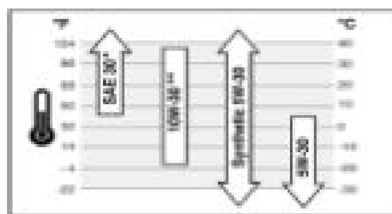
●エンジンオイルの交換

エンジンオイルの交換時期に新しいオイルと交換します。

交換時期　　初回20時間 以降、除雪期のはじめ
推奨オイル　使用オイル　SAE
5W-30規定量　　　0.35L



交換のしかた
1.機械を水平な場所で水平な状態にします。
2.オイル受けを用意してください。
3.オイル給油キャップ、ドレインボルトを外してオイルを 抜きます。
4.オイルが抜けたらドレインボルトを確実に締めます。
5.新しいエンジンオイルをレベルゲージの上限まで入れます。
6.注入後、オイル給油キャップを締めます。




警告

・平坦な場所で、安全を確保し作業を行って下さい。
・作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめて下さい。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願い致します。
エンジン停止後しばらくの間はエンジンやオイルなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。

点検整備の仕方

●点火プラグの点検･清掃

点火プラグの電極の汚れ、すき間の点検、清掃を行います。

点検時期	除雪期のはじめ
清掃のしかた	1.点火プラグキャップを取り外します。 2.点火プラグを取り外します。 3.点火プラグをワイヤブラシで清掃します。 4.隙間は0.7mm～0.8mmが適切です。
点火プラグ	LG G5
交換時期	250時間運転毎

1.ボディーカバーを外します。
2.プラグキャップを取り外します。
3.専用のプラグレンチを使い、点火プラグを取り外します。







点検･整備後は、点火プラグのネジ山に注意し、プラグレンチで確実に締付けてください。
また、プラグキャップを確実に取り付けてください。

点検整備の仕方

●燃料系の点検・メンテナンス



燃料タンクのガソリン、キャブレターのガソリンを抜きます。
ガソリンを受ける容器を用意してください。

1.燃料タンクのキャップを外し、タンク内の燃料を抜きます。
2.キャブレターフロートチャンバーに斜めについている①部分ボルトを緩めて、排出されたガソリンを容器にうけます。
キャブレター内の燃料を抜くことができます。
下向きについている②のボルトは絶対に緩めないで下さい。

緩めたボルトは、必ずしっかり締めて下さい。



警告

・緩めたボルトは、必ずしっかり締めて下さい。　ガソリンがもれると引火の危険があります。
・こぼれたガソリンは布などで、直ちにふきとってください

●除雪クラッチワイヤの調整



除雪クラッチレバーを握ってもオーガが回転しないときに調整します。

1.除雪クラッチワイヤの中間に入っている調整ボルトを反時計方向に2～3回転し(伸びる方向)ナットで固定します。
2除雪クラッチレバーを握り、オーガの回転を確認します。



警告

・回転部分の点検は絶対にエンジンがかからないことを確認して行って下さい。

点検整備の仕方

●保管時の給油場所









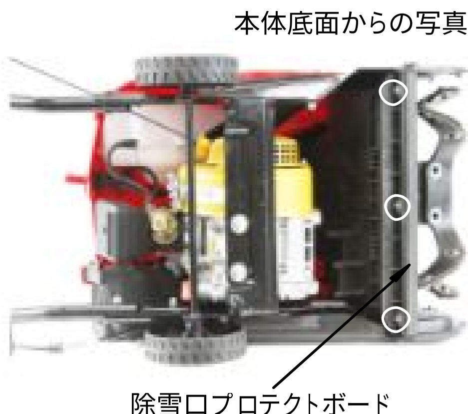
点検整備の仕方

●除雪口プロテクトボードの点検、交換

除雪口プロテクトボードに傷、われ、摩耗がないか目視で確認してください。
傷、われ、摩耗があった場合は、新しい部品と交換してください。

交換方法
1.地面につく面から、除雪口プロテクトボードを固定している、3本のビスをはずします。
2.新しい除雪口プロテクトボードの取付け穴を合わせ、3本のビスでしっかり固定します。

本体底面からの写真



除雪口プロテクトボード

⚠ 警告

・回転部分の点検は絶対にエンジンがかからないことを確認して行って下さい。また軍手などの着用は絶対に避けて下さい。

●オーガラバーの点検、交換

オーガラバーに破損や変形、摩耗が無いか目視で確認して下さい。
オーガは路面との接触により磨耗します。 磨耗したオーガラバーは新しい部品に交換してください。

交換方法
1.オーガブラケットにオーガラバーを固定している8本の六角ボルトを取り外します。
2.オーガラバーを取り外し、新しい部品と交換します。
3.8本の六角ボルトでオーガブラケットにしっかり固定します。



オーガラバー

オーガブラケット

点検の仕方

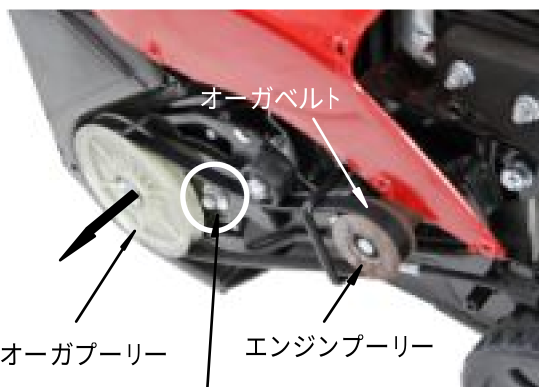
●オーガベルトの交換



オーガベルトに傷、摩耗がある場合、オーガベルトが切れた場合、新しいベルトに交換します。

交換方法
1 オーガベルトカバーを本体に固定している、5本のネジを取り外します。
2.テンションブラケットを取り付けているナットを緩めます。
3.オーガプーリーを軸に止めているボルトを外し、オーガプーリーと一緒にベルトを引き出します。
4.エンジンプーリーからベルトを外し、ベルトを取り出します。
5.新しいベルトをエンジンプーリー、オーガプーリーにかけ、オーガプーリーを突起に注意し軸に差し込みます。
6.分解時と逆の手順で組立てます。

ベルト品名　Micro-V 3PK690



点検整備の仕方

●ボディーカバーの取り外し

1.本体左側ボディを固定しているビス6本、ボルト1本を取り外します。



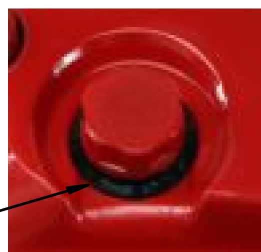


2.本体右側ボディを固定しているボルト2本をとりはずします。

3.本体上部、本体前面でボディを固定しているネジ6本を取り外します。



4.燃料タンクとボディカバーを固定している燃料タンクキャップ下の黒色プラスチックがナットになっています。時計と反回転して取り外します。



長期間使用しないとき

 警告

・エンジンキーを抜き安全を確保し作業を行って下さい。
・作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめて下さい。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願い致します。

 注意

・作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行って下さい
・メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管ください。

点検の仕方

1.燃料タンク、キャブレターの燃料を抜きます。
2.点火プラグを取り外し、1〜2cc程度のエンジンオイルをシリンダに注入ます。 リコイルスターターをゆっくり数回引き、オイルを行き渡させます。
3.リコイルスターターをゆっくり引き、重くなったところで止めます。
4.各部ボルトの破損、腐食、緩みの点検をします。
5.防錆、給油を行います。

故障と思ったら

点火プラグに火花が出ていない	①始動スイッチボタンの不良、 ②スパーク･プラグ不良 ③スパーク･プラグ･キャップ接続不良 ④イグニッションコイルの不良 ⑤イグニッションに関る配線不良	交換 交換 調整 交換 正しく接続
キャブレターに燃料が来ていない	①燃料がはいっていない ②燃料コックが閉じている ③燃料ホースの詰まり、漏れ ④燃料タンク錆びまたは、異物混入による詰まり	燃料を入れる コックを開く ホース清掃、交換 交換、フィルタ清掃
エンジン内に燃料が来ていない	①キャブレータ詰まり（ニードル･バルブ膠着）	キャブレタ分解掃除

前進走行しない	①変速輪クッションが磨耗、亀裂がある 走行ベルトが磨耗、亀裂、破損 走行ワイヤ破損	キャブレタ分解掃除
進みにくい	①シャーピンが折れている オーガの高さが適性でない 除雪部に雪が付着、堆積している	ピン交換 ソリの高さ調整 堆積した雪を雪かき棒で落とす

シュータから雪が出ない	①シュータに雪が詰まっている	雪かき棒で落とす
雪を集められない	①オーガに雪がついている	雪かき棒で落とす
オーガが回転しない	①シャーピンが折れている	シャーピン交換
雪のとびが悪い	①エンジンの負荷が高い ②シャーピンが折れている	エンジン回転をあげる シャーピン交換

固い雪に乗り上げて食い込まない	①オーガの高さが適切でない ②シャーピンが折衝している	ソリの高さ調整 シャーピン交換
オーガが路面に当たる	オーガの高さが適切ではない	ソリの高さ調節

品質保証規定

保証期間：1年間（消耗部品を除く）
部品購入可能期間：機種生産中止まで。

保証期間内であれば消耗品を除き部品が壊れても当社で保証をいたします。
保証期間内の修理も無料で承ります。その際に生じる往復の送料はお客様のご負担となります。 あらかじめご了承ください。
部品の交換をお客様でされる場合はお電話、又はメールでご連絡の後、破損した部品を当社までお送りください。確認出来次第お客様に部品をお送りさせていただきます。 送料は全てお客様のご負担となります。

以下に該当する故障は保証の対象外といたします。
1）改造や社外パーツを用いての使用
2）誤った使用方法による故障
・凍った雪の除雪や投雪口に雪を詰まらせた状態での使用等
3）定期的なオイル交換をしなかった場合、又はオイルの入れ忘れによる故障
・オイル交換：初回20時間、以降50時間毎に交換
オイル粘度；4サイクルSAE5W-30
4）燃料を入れた状態での長期放置による部品の劣化
・燃料ホース、キャブレターなどが傷むので燃料は抜いて保管してください。
5）管理不足による故障・雨ざらしや塩害による劣化、ボルトの緩み、凍結によるワイヤーの破損等
6）使用損耗及び消耗
・塗装の剥がれや錆、凹み、異音等
7）外的要因
・自然災害や盗難等
8）使用環境に影響する性能
・投雪口に詰まる雪、雪の水分量により影響を受ける投雪距離等
9）以下の消耗品の破損・紛失
燃料、潤滑油、シャーピン、オーガ（回転刃）、オーガベルト、走行ベルト、ワイヤー、ライト、配線、モーターブラシ、点火プラグ、ボルト、ナット、ワッシャー、キャブレター、ゴムパーツ（タイヤ、クローラー含む）、バッテリー、リコイル紐、エアクリーナー、付属品

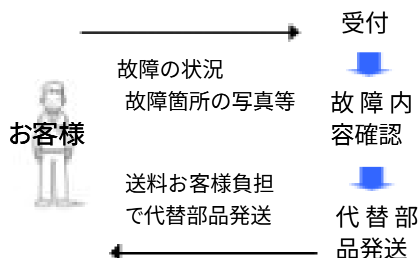
※代理店や修理業者で修理された場合の工賃はお客様のご負担となります。
※部品は在庫切れとなった場合、取寄せ後の修理、発送となります。
※予告なく機種生産が終了になった場合には、部品のご提供も終了となります。

お客様ご相談窓口

まず、「故障と思ったら」を参考に、ご自身で点検してください。

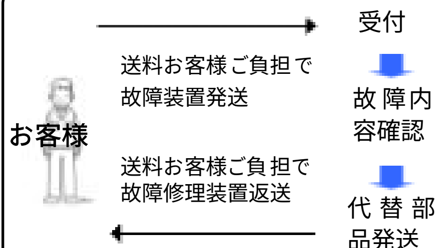
●故障部品をお客様で交換される場合

保証期間内は消耗品を除き壊れた部品は当社で保証します。
送料は全てお客様のご負担となります。



●故障品をメーカーで修理する場合

保証期間内の本体修理も無料で承ります。
その際に生じる往復の送料はお客様のご負担となります。



修理、部品に関するご相談

修理、部品を依頼される時は
下記の事項をご連絡ください。

① 故障の状況
② 型式
③ ご購入サイト、年月日
④ お名前、ご住所、電話番号

修理　使い方などのご連絡窓口

お問い合わせ窓口
TEL　0276-55-2275
FAX　0276-55-2276
メール support@haige.jp
住所　〒370-0503　群馬県邑楽郡
千代田町赤岩3072-3

点検の仕方



ハイガー産業株式会社